

関係者各位

## スーパー耐久シリーズ Rd. 6 OKAYAMA 戦レース報告



### ■レース活動

10月25日(土)予選 コースコンディション：ドライ

10月26日(日)決勝 コースコンディション：ドライ→ウェット→ドライ

10月25日～26日、スーパー耐久2025 Rd. 6 岡山戦3時間レースが開催された。ST-ZクラスはRd. 4 AP戦が不参加だったため、約3カ月ぶりのレースとなった。

残り2戦となる岡山大会は、25号車がクラス3位(ウェイト60kg)、26号車がクラス4位(ウェイト45kg)で迎え、土曜日に予選、日曜日に決勝が行われた。日曜日の決勝は、今大会も岡山戦は3時間×2レースというフォーマットで行われ、ST-Zクラスは後半のレース2での出走となった。

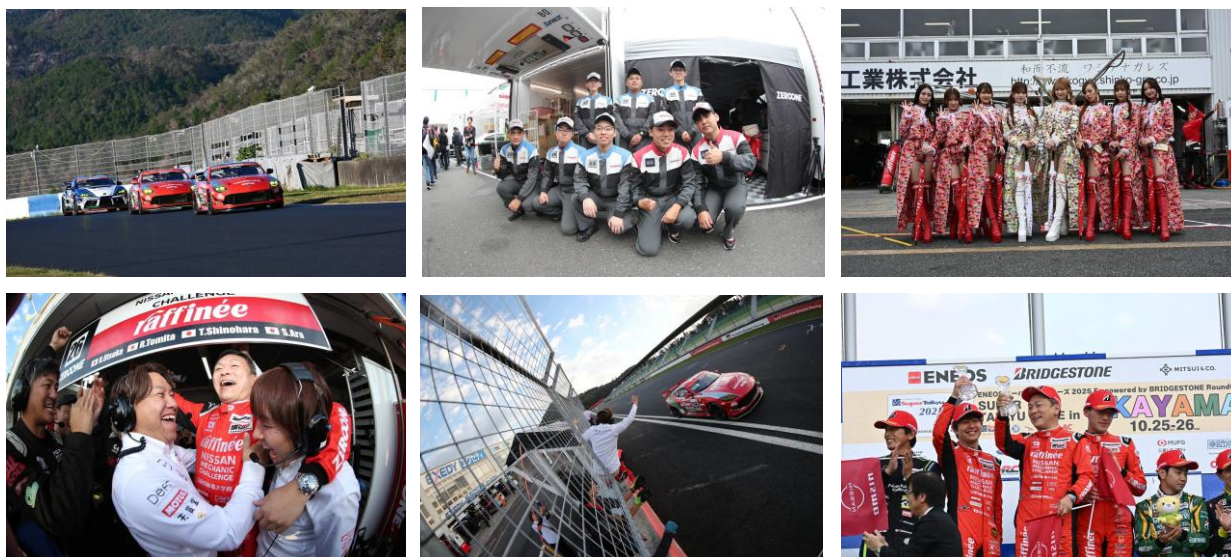
今大会のBドライバーは、25号車は佐藤公哉選手、26号車は篠原拓朗選手が務めた。予選では25号車が11位、26号車は2位となった。

決勝レースのスタートは25号車が佐藤選手、26号車は富田選手が担当。午後1時半にスタートが切られると2台は好ペースで走行を続けた。

予選からチームに非常に良い流れが来ていた26号車は、第一走者の富田選手がトップへ浮上。順位をキープしたままレース折り返しの50周目でAドライバー大塚選手に交代。素晴らしいペースで走行を続けクラストップを維持したまま最終走者の篠原選手へと繋いだ。給油時間の短縮とタイヤ無交換という思い切った作戦も功を奏し、2位のチームと34秒の大差をつけて1位でチェッカーを受けた。ドライバーが「パーフェクトなレースが出来た」と振り返るほどメンバー全員がポテンシャルを最大限に発揮できた素晴らしいレースとなった。

一方、25号車は31周目に松田選手へドライバーを交代。そして2つ順位を上げて69周目にAドライバーの田中選手へと繋いだ。順調に走行しているかと思われたが、このピットイン後に車両にトラブルが発生し失速。田中選手が一度はコースへ出走するもすぐに緊急ピットインし、無念のリタイヤとなった。

この岡山大会を終えて、クラスランキングは26号車が3位、25号車が4位となった。尚、2位のチームとは0.5ポイント差と非常に僅差なことから、次戦富士最終戦では逆転出来るよう、チーム一丸となって戦いたい！

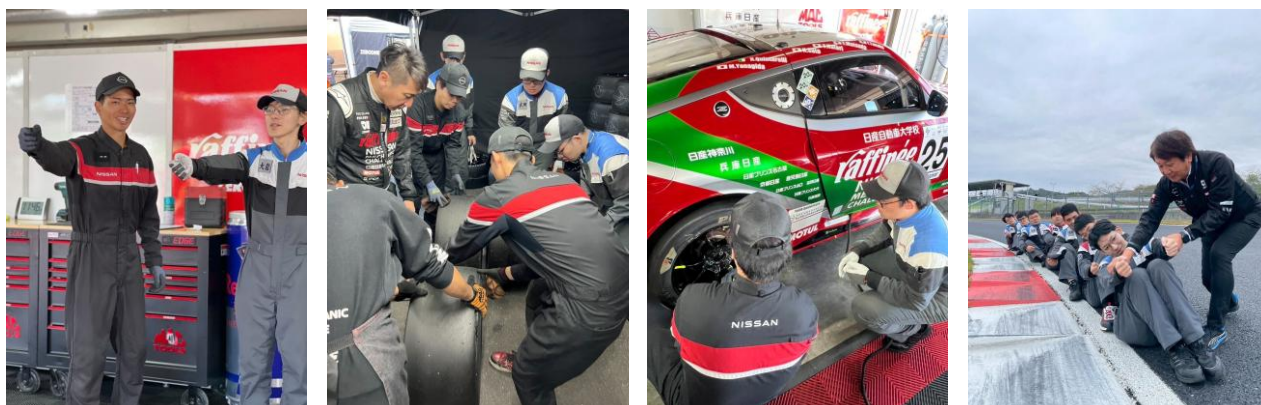


## ■日産メカニックチャレンジ活動

### 1. ピット活動

岡山戦は日産販売会社メカニック（TS）8名、日産愛媛自動車大学校学生8名が参加。TSは水曜日、学生は金曜日からチームに合流した。

水曜日の設営からチームに加わったTSは、学生が加わるまでの2日間販売店での日々の整備作業の知識を活かし積極的に活動し、金曜日からは学生とペアを組み、学生への指導も意欲的に行っていた。作業の間にも昼食を一緒にとるなど学生とコミュニケーションを図る機会を意識的に作ってくれていたため、学生達がTSに質問しながら活動する姿も見受けられた。ゼロワンが目指す「モータースポーツは人を育てる」という活動指針が体現されていたと感じた。



## 2. ドライバー交流会

10/24(金)にTSと学生がドライバーと交流会を行った。レース好きの学生やTSも多く、ドライバーと直接話ができる機会に緊張感が漂っていたが、ドライバーからのユーモアあふれる回答で緊張も解け和やかな雰囲気だった。TSからは「仕事でミスをした際に落ち込みやすい。どのように切り替えているか」「仕事で緊張したときの対処法は？」など、自身の仕事に活かせるような内容の質問が多数あがっていた。

## 3. チーム首脳陣との勉強会

今シーズンから開始した「学生・TSとチーム首脳陣との勉強会」を岡山でも実施した。サーキットのこと、レース車両のこと、ドライビングテクニックのことなど、学生、TSが事前に質問を準備、仮説を立てて勉強会に臨んだ。アライメントを取る必要性、BOPに関するような専門的な質問から、25号車、26号車を選んだ理由、早く走るために何に気を付けているか、などといった比較的平易な質問もあったが、柳田監督、浅野技術統括、吉田チーフエンジニアの3名の丁寧な説明により、学生・TSの理解は深まったと感じた。



## 4. マックメカニクスツールズ特別講習会

恒例となっているマックメカニクスツールズの特別講習会を今回も開催して頂いた。日常使っている工具の機能や正しい工具の使い方を講師の方に説明いただき、学生達は真剣な眼差しで聞き入っていた。マックツールの工具は学生には少し高級だが、「このような工具を使いこなせるメカニックになりたい!」と熱く語る学生もあり、メカニックにとって大切な工具は本人のモチベーションにもつながると感じた。

## 5. コース見学

サーキットの許可を得て、教員が運転するキャラバンでコース周回を行った。特にコーナーでは車から降り、実際のレーシングカーと同じ目線を体感し、ドライバーが如何に過酷な状況で運転しているか、を直接感じてもらうことが出来た。日産メカニクスチャレンジならではの特別な教育プログラムとして、学生達がレースの厳しさを自分の体で感じる事が出来た。

## ■ゲストエリア

今回はピットビル2Fの部屋2部屋分をゲストエリアとしてお客さまをお迎えした。日産販売会社及びパートナー企業のお客さまが多数お見えになり、レース観戦を楽しまれていた。スタート前に柳田監督、河野代表がゲストの前で意気込みを語り、共に戦っていきましょう!とお客さまを鼓舞する場面もあった。また、参加したTSも挨拶を行い、

その後各販売会社のテーブルで懇談する機会を設け、レースウィークの活動について同僚、上司に説明する姿が見受けられた。ゲストエリアのお菓子はバイキング形式を取ったが、その中にご当地銘菓の「きびだんご」を提供し、お楽しみいただいた。



以上  
TEAM ZEROONE